

# のら猫クロッチと目があつて

ご縁ができたその日から そばに寄り添い 共に歩んで 同行二人

# 5

たかの

ゆきお

## 高野之夫

豊島区長



©1997,2016 NURUE

ねぐらにほど近い豊島区池袋。

これまでにオイラは、豊島区制施行80周年「みんなでつくるセーフコミュニティとしま」や、地域猫のイベントに、ちよいちよい参加させてもらってきた。都心のご真ん中なのに、野良猫にもどこか居心地がいいこの街は、近年、大きな変貌を遂げている。豊島区長の高野之夫さんとはこれまでにも何度か顔をあわせたけれど、ゆっくりお話をするのは今日がはじめて！

地元から一歩もでたことがない、生粋の池袋っ子！

「鬼子母神堂境内には猫がいっぱいいるねえ、みんながかわい

がってくれるから。」と地域猫の話をはじめた高野区長さん。生まれも育ちも池袋。地元の大学で学び、地元で長年、古書店を営んだ。「でも、なぜ、区長になるうと思ったの？」

「池袋は戦後のヤミ市のエネルギーで大繁華街に発展したけれど、怖い、暗い、といったイメージもひきずって、時代に取り残された雰囲気になっていた。」

「ぼくはね、この街をいいイメージにして、自慢できる街にしたかったんだ。街を愛する高野さん、商店街の人たちや仲間たちに背中を押され、区議会議員、続いて都議会議員に。そして思った。豊島区を一番いい街にするには、「区長になるしかない！」と。

区民の負担ゼロで完成させた新庁舎！

夢とロマンを持って区長になった高野さんを待ち受けていたのは、借金地獄だった。区長としての最初の仕事は財政再建。区民に還元したいお金が借金の利子返済に消えていく。そんな悪循環から抜け出すためには、区民サービスも削らなければならなかったし、23区共通の職員の給料を削減した際には他の22区の労働組合から非難の嵐だったそう。

区長になって早17年、時間をかけて積み重ねてきたものが、今ようやく実を結んできたという。昨年5月には、借金ゼロ、

区民の負担無しで新庁舎を完成させた。「苦しい状況を経た

からこそ、庁舎の上にマンションを乗せるなんて発想ができたんだよ。付加価値を生み出す開発には、なんと権利者全員が賛成してくれた。「あの時は本当にうれしかったなあ……。」と区長さん。お金がないからみんなが知恵をだし、みんなが満足できる価値を生み出した。

知恵が出なけりゃ汗をかけ！汗もかけなきゃ消えていけ！

「と、こんな言葉があるんだよ。」とニコニコする区長さん。「借金ゼロで新庁舎を建てるために、旧庁舎と公会堂を定期借地権で企業に開発してもらい、76年分の

「文化」を中心として世界に通用する街を作りたい

「苦しい時こそ、常になにかの目標や夢を持っていることが大切なんだ。財政再建のために、あれもダメこれもダメと削っていったら、区民も職員も元気がなくしていった。その時、「すべてマイナスではなく、先の楽し

みを、夢や希望をもたなければいけない」と区長さんは痛感した。みんなを元気づけるには「文化」しかないと思った。しかし当時は、「こんなに厳しい財政状況の中、なぜ、区長は『文化』『文化』というのか、文化でメシは食えない」。そんな批判があいついだ。でも、終始一貫「文化」という点ではぶれなかった。最

豊島区も「野良さん」だ。苦しい時こそ、夢や希望をもつ。国際アート・カルチャー都市。「文化」を中心に世界に通用する街にする。

悪の状況でも、夢みて、人間らしく、楽しく生きていく。すぐには結論がでないけれど、そういうものを求めていけば、街も変わるし、実際、区民の考え方も変わってきたと感じている。「野良さんもまずは目の前の食べ物に気持ちがいくだろうけど、生きるためには夢も希望も必要だろう？」「うん、オイラにも夢がある。世のため、人のため、野良のために何かしたいんだ。」

自分を動物に例えるなら

「区長さんは自分がどんな動物だと思えますか？」と尋ねたら、「ぼくは後ろを見ずに走りながら考える。そこにクリエイティブなものが生まれてくるんだ。でも、絶えず変わるからついてくる人は大変だよ。」

「オオカミ？」「いや、そんなに怖くはない。いつも先頭を走っている群れのリーダー、うん、バッファローかな。」



新庁舎 10 階にある「豊島の森」で。小川が流れ水槽には魚が泳ぐ。昨年完成した新庁舎が入る建物は 49 階立て。一本の樹木をイメージした高層ビルの壁面を覆う緑化パネルや太陽光パネルは葉っぱの役割を果たしているんだって。

■高野之夫（たかのゆきお）  
豊島区生まれ。平成11年に豊島区長に就任後、現在で5期目を迎える。区議会議員、都議会議員を経て現職。「夢を持つとう！それが未来を切り拓く」を信条にピンチをチャンスに変えていく